



萌木 6月号

～自尊・立志・感動～



調布市立第七中学校

校長 小坂 力

令和2年6月5日発行

『学校再開』子供たちよく頑張っています。

校長 小坂 力

昨年度末から続いていた休業期間が終わり、やっと学校が再開できることとなりました。これまでの休業期間中、生徒のみなさん、保護者のみなさまには様々な心配や不安を抱えてきたかと思います。この間の本校の対応について、御理解・御協力いただいたこと、心から感謝いたします。誠にありがとうございました。

しかし、まだ分散登校が始まったばかりで様々な不安を感じながらの学校生活となります。学校では感染防止のための細心の注意を払いつつ、子供たちの学習保証を誠心誠意実施していきたいと考えています。何卒、よろしく願います。

さて、今週の子供たちの学校生活の様子についてですが、各クラス約半分の人数での学習・生活が始まり、授業に真剣に取り組んでいる様子が伺えます。特に、どの学年も学校として最も大切な姿勢と考えている「話を聴く」という姿が随所に見られ本当に嬉しく思います。通常であれば、隣の席にいるはずの級友がいない、マスクをしなければならないという状態ですので、会話したり関わり合ったりすることがあまりできませんが、状況をよく理解しできることに一生懸命取り組んでいます。また、新しい学年・クラスでのスタートですので、子供達同士の関わりや発言も躊躇しながら、様子を見ているという感じも伺えます。体育や音楽など体を動かしたり、声を発したりする活動については、子供達同士の距離を保ちつつ様々な工夫をしながら実施しています。できるだけ早く学校生活に慣れ、楽しく充実したものになるように取り組んで参りたいと考えています。この分散登校は現在のところ、6月12日（金）まで継続する予定でいます。



ただ、通常登校が始まっても「ウィズ・コロナ」の対応は続けていかなければいけません。中学校生活は、言うまでもなく子供たちにとって一生に1回しかない貴重な時間です。行事や部活動は世界に誇れる日本の学校教育の最大の特徴の一つです。この間、授業だけでなく、行事や部活動など様々な体験活動ができないことを、そこから学べる多くのことを犠牲にしていることについて本当に心苦しく思っています。できることは限られているかもしれませんが、子供たちが「学校には感動がある」という思いを味わえるよう、関係機関と連携を図りながら、模索し取り組んで参ります。また、本年度の教育活動につきましては、様々な行事の中止・変更点は現在のところ、お便りやホームページ等でお知らせしたとおりです。今後も状況によっては変更する可能性もありますが、その都度対応してまいりますので、よろしく願います。

最後になりましたが、子供たちのこれまでの間のストレスや不安の緩和等心のケアが最も大切と考えています。教職員が一枚岩になって、子供たちの様子を観察したり、会話したりして把握していきますが、少しでも御心配な点がございましたら、どうぞ遠慮なく御相談ください。

「お話タイム」について

今年度から、毎学期開始時に「お話タイム」という時間を設定することとしました。これは、担任が生徒一人一人と1対1で会話をするというものです。二者面談や三者面談は、学習や生活・進路のことなど、議題等をもってするものですが、この「お話タイム」は何の議題もありません。特に決まった細かな時間設定もしません。只々、少しの時間、最近の様子や困ったことはないかなど、担任とコミュニケーションを図るために実施するものです。給食の時間や放課後の時間などを利用して行っていくしますので、気軽に何でも話せるようにしてほしいと考えています。よろしくお願いします。



外国人英語講師

Chris Acevedo 自己紹介文です。

初めまして、クリスといいます。アメリカのアーカンソー州出身です。2018年の12月から日本に来ました。2019年から英語を教え始めました。自分の教育哲学は、最初に英語のことを好きになって欲しいことです。あと、私の授業では、自分の経験と性格からアメリカの文化など教えます。そのようにして学生に興味持ってもらいたいと思っています。そして、自身の努力によって英語を勉強してほしいと思います。

* 本人が日本語で書いてくれました。

